

第3回 越前町中学校再編検討委員会 議事録

日 時 令和6年10月30日(水)

午後7時～8時15分

場 所 織田コミュニティセンター

1階多目的ホール

次 第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 自己紹介

4. 協議事項

(1) これまでの検討委員会の経過について

(2) 越前町の中学校再編に関する提言書(案)について

委員長

事務局からこれまでの経過等、提言書についてご説明いただきましたが、まず1回2回目の活動でやってきたことについてご質問、ご意見を先に伺いたいと思います。いかがでしょうか。

委員

今、高校3年生の娘がいるんですけども、その子が中学校2年生の時に統合があるという話を聞いていたが、それから6年。こういうことは、6年たって今この段階というのは、普通の速さなのか。すごく遅く感じるんですけども、というのが1点。今、説明を聞いていると、再編に関しての肯定的な意見が載っているが、否定的な意見というのは、どういうのがあったのか、ちょっと知りたいです。

事務局

それでは一つ目の6年間の長いという話がありました。この再編の経過の中で再編環境調査を始めたのが平成30年からということで、そこでアンケートをとる。そのアンケートに基づいて、環境検討委員会を設置した。その中で環境検討委員会の提言を受けて、町全体の基本方針案を作成しているわけです。その基本方針案の中では、まず小学校の方から、優先した計画となっていました。その中でも中学校はやはり、小学校の後に行うという

ことで、中学校は先ほども言いましたが、令和 8 年度以降からこういった検討の場をするということになっていました。ただ、その説明会の中でやはり早めて欲しいという意見があったので、今こういう場を設けて、計画の中では、まだ、それも少し早くなっているような状態にはなっています。町としては、順番を踏まえた結果が今の状況ということでございます。それと、否定的な意見と申しますか、今回の第 1 回、第 2 回の検討委員会の中では、3 中学校の再編に対して、特に否定的な意見とか、そういったものはなかったと思います。細かい意見等も、ホームページの方に議事録として載せてございますので確認していただくこともできますが、否定的な意見はなかったように思われます。

委員

何点かお伺いしたいのですが、最初、参考資料の 3 ページで、2. (2) 教員数が少なくなることによる課題とありますが、これはそもそも、教員数が少なくなるというのは、生徒数が少なくそれによって教員数が少ないということをおっしゃっているのか、その労働力不足的などころで、そもそも教員数が少なくなることをおっしゃっているのか、をお聞きしたい。2 点目ですけど、今現在織田中学校をベースに、提言の方がまとめられていると思いますが、織田中学校の耐震だとか、水害だとか、土砂災害だとか、その辺りちょっと勉強不足で分からなく、その安全面、防災面などの状況というのをお聞きしたい。3 点目は、宮崎だとか越前だとかになると、距離が遠いので通学の手段としてどういったことを想定されているのか。あと、比較的越前町は外灯がないようなところだとか、旧町村の区割りで言うと町境とかはあんまりそういうインフラが整備されてなくて、結構真っ暗だったりするのかなと。そういうインフラの整備などもこの中学校再編する中では必要になってくるのかなということが、安全に考慮するとそこが大事なんじゃないかなと思ったので、お考えをお聞きできればと思います。あと最後にもう 1 点、難しい話じゃないかなと思いますが、人口減少は全国的な流れのなかで、越前町は残念ながら消滅可能性都市というふうな形で公表がなされました。これは恐らく女性の出産年齢に該当する人が減っているのか、そういう形で報道されたのかなという認識をしていますが、この中学校再編が、さらにぶっちゃけ利便性悪くなると思うんです。子育て環境からすると、学校の距離遠くなって、仕方ない部分ありますけど、メリットあんまりないんじゃないかなと個人では思っています。そういった中で人口減少にさらに悪影響というのか、さらに人口減少を促進するような動きに繋がらなければいいなと思っています。やっぱり、現在越前町に皆さん住んでいるので、ふるさとというのか、そういったものがなくなってしまう可能性が出てくるというのは皆さん嫌なんじゃないかなと思うので。すごく難しい問題だし、どうしてもその集約する必要あるのもわ

かりますし、今ある建物を使ってやっていく必要もすぐわかるのですが、そういった課題はあるかな。少し不安な面がある、意見になります。

事務局

まず初めの教員の人数が少なくなるのではないかと、というご質問でございますが、教員数につきましては、子どもの、生徒の人数によってクラスの数が決まっております、それによって先生の配置が決まります。したがって、そのクラスの数が減れば、先生の数も減ると、というような一応決まりがありますので、そういうことが考えられるということでございます。それから2点目、中学校の耐震はどうなんだと。安全面につきましては、中学校につきまして耐震強化はすべて終わっております。そういった面では安全面には特段問題はないかなと思います。それから宮崎・越前ですね、通学方法、また外灯、町境のインフラ整備ですが、例えば織田の方ということになれば、スクールバスの運行を当然、しなくてはいけないというふうに考えております。その中で、例えば、宮崎の方から織田の方に来る場合に、昔でいう町境で外灯などのインフラですね、もしここが暗いのだというふうな通学路があれば、そこはこちらの方で、また担当課とも共有しながら、安全面に配慮していきたいというふうに考えております。それから最後の4つ目の人口減少についてですが、これにつきましてはおっしゃるような、全国的な大きな課題で、学校再編をすることによって、より加速化するのではないかと、ご心配かもしれませんが、学校につきましては、多くの子どもたちが一堂に会しまして、楽しい学校生活を、いろんな人間関係をもって、過ごして欲しいというのが、やはり我々教育委員会側としての一番の目的でございます。3 中学校が集まれば、表でも出てきますけれども、朝日中学校よりも、何年か後には多くなります。そういったことも踏まえ、まして町内に同等の中学校が2校できるということを考えますと、やはり生徒同士が切磋琢磨いたしまして、お互いが競争してやっていると、ということも考えられます。これにつきましては確かにちょっと危惧する面はございますが、あくまでも学校の生徒、人間性とか社会性、そういったものをこれから醸成していきたいというふうに考えておりますので、ご理解していただきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

委員

災害については特に問題はないのですか。

事務局

はい、問題ございません。

委員

あと朝日中より多くなるとの回答がありましたが、特段個人的には別に朝日中と比較することはないのかと、そこに異議を見いだせないなあという感じではあるのですけど。それよりもやはり子どもたちが楽しく過ごせるっていうところは第一義的にあると思いますし、そこから将来的に越前町楽しいよね、越前町で暮らしてよかったなあと思ってもらって、帰ってきてもらえる。多分、高校は越前町に1校ありますけど、そこだけじゃなくいろんな高校行くでしょうし、そこから大学は当然、県外、専門学校もあると思いますが、県外だとか県内でも、多分他市町に出ていくことの方が多くなってくるんじゃないかなと思うんで、そういうところから帰ってきてもらうことがすごく大事だと思っています。だからやっぱり学校での生活とか、影響が大きいんじゃないかなと思って、そういう過程では、確かに生徒数が増える話は、大事なんじゃないかなと思いますので、行政上、例えば効率、多分学校を統合したほうが効率いいのはすごくわかるんです。人件費を考えたりしてもシステムの維持管理を考えても、当然統廃合していったほうがすごく、効率的に回るとは思いますけど、それよりも提言書に書かれていました、子どもたちが楽しく学校生活を暮らせるとか、子どもたちのためになるような学校というものを考えていく必要あるかな、と回答を聞いて思いました。自分自身も真剣に考えていきたいと思いました。

事務局

私の方から先ほど最後にご指摘のありました、中学校の再編が人口減少に繋がっていくのではないかというご指摘についてですが。教育委員会としては、人口減少については町全体としての大きな問題でして、だからといって直接、学校再編を直結して考えているというわけでは正直ございません。実際、確かに近くに学校があるからこそ、利便性が高いなっていうのは、委員おっしゃる通りかなと思います。しかし、現状の学校の規模はこういう規模ですから、やりたくてもできないことも実際あるという、それで、やっぱり大事なのは、三つの中学校が一緒になったらただ単にその人数を足し算して、一つの学校にするのではなく、やはり新しい学校を作っていくという思いで、それはハード面でありソフト面でもやはり真剣に検討して作っていかなくちゃいけないのかな、そういう思いでいます。じゃどうするかと、今ちょっとここで申し上げることはできないんですが、思いとしては新しい中学校を作っていくんだ、という考えでいますので言わせていただきました。

委員

織田中学校、宮崎中学校の課題として空き教室がないためとありますが、1学年、2クラスであれば十分教室足りると思うのですが、どういった根拠で空き教室足りないと言っているのか。確かに特別教室みたいのはないかもしれませんが、それは普通教室とは違うところがあるんじゃないかなと

と思いますが、どういう根拠でおっしゃっているのか。

事務局

今、織田中学校の教室につきましては、いろんな特別教室ですね、もともと教室であったところが、特別教室で使われているところもございます。それで、現状で3クラスの教室を作ろうと思うと足りない、ということでございます。

委員長

では、次に先ほど説明ありました提言書について、皆様のご意見、また、分からないこと、おかしいと思われるところがありましたら、お願いします。何かご意見等ございますか。

委員

提言書を先ほど読ませていただいて、すいません、本当に個人的な感想なんですけれども、織田中学校の増改築をイメージする提言書だったなあと。新築というよりはいろんな要素、そういった観点から、増改築っていうのが、イメージとして浮かぶ内容だなあと。そういったところで先ほどの部分と重なる部分ではあるんですけれども、増改築、という形にもしなるのであれば、今、武生高校などは、既存校舎を使いながら、これは聞いただけなんで間違っているかもしれないが、教室を改築して来年度からかな、新しい教室になりますという、オープンスクールのところで聞いた話なんですけど、そういうこともできるんだなっていう今年聞いたものですから、もし増改築であれば、増築は新しいものができ上がるイメージとして持っていますけれども、改築のところに関して教室なども、既存で使っているところをうまく回しながら、新しく作っていただいたりとか、他の特別教室だったりとか、普通の教科以外で使う教室なんかでもそういった改築っていうものを考えていただけるとありがたいなというところ。あと鯖江中学校なんかは今、丹南高校のところの校舎を使うということで進められていますが、それを進めるうえでインフラのところ、子どもたちが通る道などの舗装なんかもされていまして、今ありましたインフラのところの整備という内容では、融雪なんかとか、そういったところも考慮していただけるとありがたいと思います。提言に関してはなかなかズバッとダイレクトに言葉を選択するっていうのは難しいんだろうと思いますけど、読ませていただいた中での感想としては、新築はないんだなというイメージを持ちました。

事務局

ハード面、特別教室など新しく作る場合という話ありましたが、ここにも書かしていただきましたが再編による効果、再編したことによって、新たなことが可能になる教室とかですね、そういったことは考えていきたいと思っております。それと通る道の安全面などの話がありましたが、当然、危

険な箇所については、今でもですね、そういった安全整備については行っておりますし、これからも新築になった場合、改修になった場合でも、危険箇所等についてはきちっと、整備していきたいと思っております。

委員

同じく中学校の配置の件で、増改築という話がありました。私個人的には、増改築のほうがいいと思います。ただ、私自身、織田中学校出身ですし、PTAなどで今行っていますが、増改築とかする場合、具体的なその場所とか、大きさ、それが決まっているのかということと、クラスを改築とかしている時に、子どもたちが勉強する場所というのは、例えば1階をやるときに2階で、2階をやるときに3階で、そういうふうに計画を立てていらっしゃるのかなど、ちょっと疑問に思っています。聞かせていただけますか。

事務局

現時点では具体的な内容は決まっておられません。お子さんたちが勉強するところですね、そういった工事が迷惑になるようなことがないように、増築、改築する場合も、する必要があると思っておりますが、具体的に今どこに建てるとか、ということはまだ決まっておられませんので、何とも言えませんが、お子さんたちの勉強に迷惑にならない形で、やはり進めるべきだとは思っております。

事務局

今ほどの補足でございますが、一般的に申し上げますと、例えばプレハブですとか仮の教室をグラウンドの隅とかに建ててやるというのが大体一般的なやり方かなというふうに考えております。

副委員長

今でもスクールバスを動かしていると思うんですけど、これは各地区の停留所、停留所に停めてそこから歩いてということになっていきますよね。これからまた織田とか宮崎のことはわからんですけど、雪が降ってもそのまま停留所に停めて、その後100mとか200mとか歩かすとか、小曾原とか樫津など地区が広いのにどっか1ヶ所で止めて歩かすとか、そういうことはどうなんでしょうか。

事務局

スクールバスにつきましては、基本的にはバス停に止まるような形になっております。ただ、特別な場合、バス停が近くにないとか、そういったことはあるかと思いますが、基本的にはバス停で止まることとなります。冬場につきましても、通学路の方は除雪等も入っているところもございますし、通学路で困難な場合につきましては、場所を変えることもあるかと思いますが、そこは現状を見ながら対応していきたいと考えております。

事務局

原則として、今課長が申し上げた通りなんですけど、ちょうどですね、朝日

小学校と常磐小学校の来年 4 月に向けた具体的な話をしています。その中で、常磐小学校区のお子さんが今まで徒歩でありましたが、スクールバスになります。実際に運行表とか工程表を立てみて、ルートこうなりますよねっていうのがあって、それを保護者の方々にお示しして、どうですかと。お話ししましたら、いやここはこうした方がいいんじゃないかと、子どもたちの安全にはこうした方がいいんじゃないか。順番はこういうふうに回った方がいいんじゃないかとか、いろんな具体的なものが出た時点で、地域の方々のいろんなご意見をいただいてですね、何とか最適なものを作っていく作業に最終的にはなっていくのかなと思いますので、そういう地区の実情がございますから、それに応じて話し合いをして決めていきたいと思っております。

委員

スクールバスのことでお聞きしたいのですが、私自身は織田なのであまり関係ないんですが、休みの日ですね。部活動に参加するとなった場合に、そういった生徒のためのスクールバスなどは出すんですか。それとも、今動いているコミュニティバスなどを利用して参加させたりするってことなんでしょうか。

事務局

校長先生方、今土曜日の部活動のバスは出ていますよね。

(出ています)

はい。今現在は出ております。

委員

夏休みとかもですか。

(はい、出ています。)

委員

宮崎中学校に息子いるんですけど、多分土曜日出ていませんよ、バス。部活用には、毎朝送っていて迎えにいらしていますけど。僕はそうしています。

委員

宮崎中は出ません。

委員長

今、いろいろなご意見が出ましたけど、提言書の内容そのものについて、何かご意見はありませんか。

委員

以前の小中学校説明会でもお話ししましたが、部活動がない部が結構あります。部活動の地域のクラブ化への移行も踏まえて提言書には、書かれてないのかなというふうに思ったんですが、やはりどっかで部活動の多様化と、選択肢の多様化といいますか、そういったことも、地域移行化に進むにあたって、一言なんか部活動についても、書いていただきたい。現状で

も、織田中学校ホッケー部女子はもう、女子単独では出場できない可哀そうな状況になっていますので、プラスやっぱりうちの息子、中学校に上がってサッカーやりたかったけどサッカー部がないのであきらめた、その学校にバスケットボール部がないから他のところに行っているというのもあるんで、その部活動の選択肢の多様化というのも提言書に入れていただいたほうが、より説得力があるのかなというふうに思います。

それと全く関係ないんですが、皆さん、令和17年の人数見てください、154人。これ、1歳の子どもさんをカウントしての人数だと思いますが、じゃあ朝日と比べてどうなんですか。もう、もしかしたら、越前町も朝日と合併して1校だけの時代が来るんじゃないか。この先、当然まだ生まれてくる子どもたちが何人になるかわかりません。今は10年後のお話ですが、あと20年後には、また合併の話が出てくるんじゃないかなっていうことも危惧しております。そのように表を見ていました。

事務局

部活動については今在籍する中学生のお子さんたち、あるいは今後入ってくる子どもたちにとって大きな問題なのですが、実はご承知のとおり今、部活動は、全国的に、越前町でも地域移行を進めております。先日も夜、部活動の地域移行について、話し合いをしたところです。今のところ、進めているのは、休日の部活動ですね、土曜日、日曜日。これが地域移行とは、どういうことかという、簡単に言うと、学校から離れることになるんですね。中学校の教育活動から完全に部活動を切り離していきましょうということが全国的な大きな流れなんです。それで、まだここから先が決まっていないんですが、2週間前か1週間前に報道があつて驚いたんですが、国の方は、平日の部活動も、地域移行をしていきましょうという記事が出ておりますので、これはまだ何も決まっておりません。何も決まっておりませんが、おそらくいずれ部活動は学校教育から切り離されていくんだろうなというふうに思いますので、その辺のことを、考えながらですね、考慮しながら提言書を作っていくたいなというふうに思っております。

委員

そういう考えで、多分そうなんだろうなというふうに理解はしています。

委員長

提言書に何か付け加えたらとか、ないですか。なければこの提言書でということで、終わりたいんですけどもいいですか。

(意見なし)

はい。では無ければ今日の議事については終わりたいと思います。はい、ありがとうございました。

事務局

この提言書について、今後の予定なんですけれども、今日、皆様に諮りましたこの提言書を教育委員会、教育長の方に提言をするような形になります。提言をしたということで、一応この委員会は終了ということになりますので、この委員会が、本日が現時点では最後の委員会ということになります。また提言書の日になどについては改めて委員長さんにご相談させていただいて、今年中にはしたいというふうに思っております。

5. 閉会

副委員長あいさつ

出席者 20名

欠席者 4名

事務局 教育長、教育委員会事務局長、教育政策推進室長、教育政策推進室職員3名